

平成 17 年度水戸市内遺跡発掘調査報告書



2007

水戸市教育委員会

平成17年度水戸市内遺跡発掘調査報告書

2007

水戸市教育委員会



台渡里廃寺跡(第26次)掘立柱建物跡 SB001 検出状況(西から)



台渡里廃寺跡(第26次)掘立柱建物跡 SB004 検出状況(西から)



西原古墳群(第6地点)トレンチ1周溝調査状況(南東から)



堀遺跡(第3地点)調査区全景(西から)

ごあいさつ

歴史的文化遺産のひとつである埋蔵文化財は、工事や開発などにより一度破壊されると二度と原状に復すことができないため、私たちが大切に保存しながら後世へ伝えていかなければならない貴重な財産です。近年の大規模開発等による都市化の様相が強まる中で、埋蔵文化財の現状保存は非常に困難になりつつありますが、本市においてもその意義や重要性を踏まえ、文化財保護法及び関係法令に基づいた保護保存に努めているところです。

本書は、水戸市内において実施した国・県費補助による試掘・確認調査の最初の報告書です。

平成17年度に実施した試掘・確認調査は実に74件に及び、県内でもトップクラスの件数といえます。本書には、これらの調査によって得られた縄文時代から江戸時代に及ぶ数々の興味深い成果を盛り込みました。

西原古墳群においては湮滅していたと考えられていた円墳の周溝が確認され、周溝内から埴輪片が多数出土し、この古墳群が6世紀代から営まれていたことが判明しました。

台渡里廃寺跡では、これまで南方地区の寺院の東側を区画する溝が確認されていた場所の周辺から、一辺が9mを超える7世紀後半～8世紀初頭に営まれた竪穴住居跡及び多量の須恵器や鉄滓などが出土するとともに、同時期に営まれていたとみられる大形の掘立柱建物跡群が多数、確認されました。

また、台渡里廃寺跡に隣接する堀遺跡においては、廃寺跡と同時期に営まれていた奈良・平安時代の集落跡の一部が確認されました。

河和田城跡に近接する経塚遺跡では、中世の地下式坑や堀などの遺構が多数確認され、河和田の地における戦国時代の様相を捉えることができました。

水戸城跡では、旧二の丸の隅櫓跡付近を調査し、水戸徳川家ゆかりの瓦や漆喰等が多数出土しました。

それぞれの調査面積・期間はささやかなものですが、その成果を一つ一つ積み重ねることにより、水戸の歴史をより豊かなものにし、「歴史都市・水戸」にふさわしい、郷土の歴史的景観を活かしたまちづくりの一助となることを願ってやみません。

最後になりましたが、調査に当たり多大な御理解と御協力をいただきました事業者・土地所有者の皆様、並びに種々の御指導・御助言をいただきました文化庁記念物課、茨城県教育庁文化課、水戸市史跡等整備検討専門委員の皆様方に心から感謝を申し上げます。そしてここに刊行する本書が、かけがえない郷土の文化財に対する意識の高揚と、学術研究等の資料として、広く御活用いただけることを期待し、ごあいさついたします。

平成19年3月

水戸市教育委員会
教育長 鯨岡 武

例 言

1. 本書は平成17年度に国・県費の補助を受けて水戸市教育委員会が直営事業として実施した水戸市内に所在する遺跡の発掘調査報告書である。
2. 調査対象となった遺跡は、下記のとおりである。
坪遺跡・江川館跡・大串遺跡・大畷町遺跡・加倉井忠光館跡・笠原神社古墳・笠原水道・釜神町遺跡・釜久保遺跡・河和田城跡・経塚遺跡・軍民坂遺跡・鯉淵城跡・小林遺跡・金剛寺遺跡・下畑遺跡・湿気遺跡・下荒句遺跡・下野遺跡・下木郷遺跡・周知外(小町町地内・木葉下町地内)・宿西遺跡・高原古墳群・竹ノ内遺跡・波渡里庵跡・長者山城跡・仲根遺跡・中河内遺跡・長嶋遺跡・西原古墳群・終巷遺跡・東割遺跡・平塚遺跡・藤井町遺跡・舞台遺跡・堀遺跡・万蔵寺遺跡・水戸城跡・妙徳寺付近古墳群・向原遺跡・谷田古墳群・横宿遺跡・米沢町遺跡・竜間遺跡
3. 上記の遺跡のほかに、国指定史跡「吉田古墳」および七面製陶所跡において、保存目的の確認調査を行ったが、吉田古墳については、『吉田古墳Ⅰ 一史跡整備計画に伴う吉田古墳群第1号墳の第1次・第2次発掘調査報告書』に調査成果を掲載している。七面製陶所跡については、平成18年度以降も継続して確認調査を行うため、これらの調査成果については、平成19年度以降に刊行を予定している正式報告書において公表する。
4. 調査にあたった組織は以下のとおりである。

(平成17年度)

総 務 局	鯉岡 武	水戸市教育委員会教育長
	横須賀徹	水戸市教育委員会教育次長
	小畑 完	水戸市教育委員会生涯学習課長(平成17年10月1日まで)
	藤枝 孝	水戸市教育委員会生涯学習課長補佐
	成田行広	水戸市教育委員会生涯学習課文化振興係長
	黒須雅継	水戸市教育委員会生涯学習課文化振興係主事
	石川 健	水戸市教育委員会生涯学習課文化振興係主事
	粟生美賢子	水戸市教育委員会生涯学習課文化振興係文化財専門員
調査担当者	川口武彦	水戸市教育委員会生涯学習課文化振興係文化財主事
	関口慶久	水戸市教育委員会生涯学習課文化振興係文化財主事
	新垣清貴	水戸市教育委員会生涯学習課文化振興係埋蔵文化財専門員

(平成18年度)

総 務 局	鯉岡 武	水戸市教育委員会教育長
	小澤邦夫	水戸市教育委員会教育次長
	森田秀人	水戸市教育委員会生涯学習課長
	藤枝 孝	水戸市教育委員会生涯学習課副参事
	成田行広	水戸市教育委員会生涯学習課長補佐
	宮崎賢司	水戸市教育委員会生涯学習課文化財係長
	黒須雅継	水戸市教育委員会生涯学習課文化財係主事
調査担当者	川口武彦	水戸市教育委員会生涯学習課文化財係文化財主事
	関口慶久	水戸市教育委員会生涯学習課文化財係文化財主事
	新垣清貴	水戸市教育委員会生涯学習課文化財係埋蔵文化財専門員

5. 発掘調査と整理作業には以下の者が参加した。

発掘調査参加者

小野寿美子(筑波大学大学院人文社会科学研究所大学院生)、中尾麻由実(筑波大学大学院人文社会科学研究所大学院生)、石川 勉、小野瀬智工、小山司農夫、加藤利男、河原井俊吉郎、久保木きよ子、栗原芳子、郡司なか、郡コシ鈴木潤一、高柳悦子、中島雄太(立正大学文学部史学科考古学専攻部生)、花田繁二郎、皆川明子、皆川幸子、

整理作業参加者

渥美賢吾(筑波大学大学院人文社会科学研究所大学院生)、安島町子、石崎洋子、色川順子、大内恵子、大部直美、鬼沢規子、川又恵美子、佐々木賀津江、田上雪枝、橋本祥子

6. 本書の執筆は各調査担当者が分担して行ない、全体の編集には川口・渥美があたった。出土遺物については図化

および観察表作成、解説文執筆を色川順子氏（ひたちなか市文化・スポーツ振興公社埋蔵文化財調査事務所）に依頼した。堀遺跡（第3地点）および台渡里廃寺跡（第30次調査）から出土している瓦の解説文については木本拳周氏（帝塚山大学人文学部大学院生）に依頼した。執筆分担はそれぞれ文末に明記した。

7. 本書に関わる資料は、水戸市教育委員会が保管している。
8. 遺構の写真撮影は調査担当者が行った。
9. 発掘調査から本書の刊行に至るまで、下記の方々・諸機関より御指導・御教示・御協力を賜った。記して深く謝意を表す次第です（五十音順・敬称略）。

【個人】 青山俊明、石川 功、飯島一生、稲田健一、今尾文昭、大塚初重、大橋泰夫、大森隆志、岡本東三、川崎純徳、川尻秋生、河野一也、瓦吹 堅、木本雅康、黒澤彰哉、小杉山大輔、小松崎博一、後藤道雄、斎藤弘道、坂井秀弥、佐々木義則、鈴木素行、須田亜紀、清野孝之、玉田芳英、中山 晋、日高 慎、松本太郎、三井 猛、宮内良隆、山路直充、山中敏史、吉村武彦

【機関】 文化庁文化財部記念物課、茨城県教育庁文化課、明治大学古代学研究所、有限会社三井考測、荻谷建設株式会社、東信建設株式会社、株式会社キガ

凡 例

1. 遺構平面図・断面図の縮尺は統一していない。縮小率は各図面に示したスケールを参照願いたい。
2. 遺跡の位置図のうち、第1図は川口が（茨城県教育委員会編 2001『茨城県遺跡地図』）をスキャナーを用いて読み込んだ画像をデジタルトレースし、1:60,000の大きさに縮小したものである。個別の遺跡位置図は、(井上・藤沼・仁平・根本 1999『水戸市埋蔵文化財分布調査報告書 平成10年度版』水戸市教育委員会)および(細谷・佐藤・川井・根本・市毛 1994『内原町の遺跡—内原町遺跡分布調査報告書—内原町史編さん委員会)の地図をスキャナーで読み込み、画像としたものに加筆した。
3. 遺構断面図及び土層積図の標高は、その都度図中に示している。
4. 本書中の色調に関する表現は新版標準土色帖（農林水産技術会議事務局監修 2000年版）に従った。
5. 引用・参考文献は、一括して本書の最後に提示した。
6. 表紙に使用した遺物の実測図は、台渡里廃寺跡(第30次調査)竪穴住居跡(T5-001)出土の金属器模倣須恵器である。実測及び浄書は渥美が行った。

目 次

あいさつ

例言・凡例・目次

第1章 平成17年度の発掘調査と概要	1
--------------------	---

第2章 開発に伴う試掘調査

2-1 笠原神社古墳(第1地点)	5
2-2 釜神明遺跡(第1地点)	6
2-3 釜久保遺跡(第1地点)	8
2-4 経塚遺跡(第2地点)	9
2-5 軍民坂遺跡(第1地点)	11
2-6 下荒匂遺跡(第1地点)	12
2-7 高原古墳群(第1地点)	13
2-8 竹ノ内遺跡(第2地点)	14
2-9 長者山城跡(第1地点)	16
2-10 中河内遺跡(第1地点)	17
2-11 平塚遺跡(第1地点)	18
2-12 堀遺跡(第4地点)	19

2-13	西原古墳群 (第6地点)	20
2-14	水戸城跡 (第2地点)	22
2-15	水戸城跡 (第3地点)	25
2-16	米沢町遺跡 (第1地点)	27
2-17	米沢町遺跡 (第2地点)	30
2-18	米沢町遺跡 (第3地点)	30

第3章 開発に伴う確認調査

3-1	堀遺跡 (第3地点)	32
3-2	台渡里廃寺跡 (第26次)	40

引用・参考文献	82
---------	----

図版目次

第1図	調査対象となった遺跡の位置	4	第30図	中河内遺跡 (第1地点) 出土遺物	17
第2図	笠原神社古墳 (第1地点) の位置	5	第31図	平塚遺跡 (第1地点) の位置	18
第3図	笠原神社古墳 (第1地点) のトレンチ配置	5	第32図	平塚遺跡 (第1地点) のトレンチ配置	18
第4図	笠原神社古墳 (第1地点) 出土遺物	6	第33図	平塚遺跡 (第1地点) 出土遺物	18
第5図	釜神町遺跡 (第1地点) の位置	6	第34図	堀遺跡 (第1地点) の位置	19
第6図	釜神町遺跡 (第1地点) のトレンチ配置	7	第35図	堀遺跡 (第1地点) のトレンチ配置	19
第7図	釜神町遺跡 (第1地点) 出土遺物	7	第36図	堀遺跡 (第4地点) 出土遺物	20
第8図	釜久保遺跡 (第1地点) の位置	8	第37図	西原古墳群 (第6地点) の位置	20
第9図	釜久保遺跡 (第1地点) のトレンチ配置	8	第38図	西原古墳群 (第6地点) のトレンチ配置と周溝の断面	21
第10図	釜久保遺跡 (第1地点) 出土遺物	8	第39図	西原古墳群遺跡 (第6地点) 出土遺物	21
第11図	経塚遺跡 (第2地点) の位置	9	第40図	水戸城跡 (第2地点) の位置	22
第12図	経塚遺跡 (第2地点) のトレンチ配置	10	第41図	水戸城跡 (第2地点) のトレンチ配置	23
第13図	経塚遺跡 (第2地点) 出土遺物	11	第42図	水戸城跡 (第2地点) 出土遺物	24
第14図	軍民坂遺跡 (第1地点) の位置	11	第43図	水戸城跡 (第3地点) の位置	25
第15図	軍民坂遺跡 (第1地点) のトレンチ配置	12	第44図	水戸城跡 (第3地点) のトレンチ配置	26
第16図	軍民坂遺跡 (第1地点) 出土遺物	12	第45図	米沢町遺跡 (第1地点) の位置	27
第17図	下荒句遺跡 (第1地点) の位置	12	第46図	米沢町遺跡 (第1地点) のトレンチ配置	28
第18図	下荒句遺跡 (第1地点) のトレンチ配置	13	第47図	米沢町遺跡 (第1地点) 出土遺物	29
第19図	下荒句遺跡 (第1地点) 出土遺物	13	第48図	米沢町遺跡 (第2・3地点) のトレンチ配置	28
第20図	高原古墳群 (第1地点) の位置	13	第49図	堀遺跡 (第3地点) の位置	32
第21図	高原古墳群 (第1地点) のトレンチ配置	14	第50図	堀遺跡 (第3地点) のトレンチ配置	33
第22図	高原古墳群 (第1地点) 出土遺物	14	第51図	堀遺跡 (第3地点) 002・005号遺構出土土器・鉄製品	35
第23図	竹ノ内遺跡 (第2地点) の位置	14	第52図	堀遺跡 (第3地点) 004・007号遺構出土土器	36
第24図	竹ノ内遺跡 (第2地点) のトレンチ配置	15	第53図	堀遺跡 (第3地点) 出土瓦 (1)	37
第25図	竹ノ内遺跡 (第2地点) 出土遺物	15	第54図	堀遺跡 (第3地点) 出土瓦 (2)	38
第26図	長者山城跡 (第1地点) の位置	16	第55図	堀遺跡 (第3地点) 出土瓦 (3)	39
第27図	長者山城跡 (第1地点) のトレンチ配置	16	第56図	台渡里廃寺跡 (第26次) の位置	40
第28図	中河内遺跡 (第1地点) の位置	17	第57図	台渡里廃寺跡 (第26次) の位置と周辺の遺構配置	41
第29図	中河内遺跡 (第1地点) のトレンチ配置	17	第58図	台渡里廃寺跡 (第26次) のトレンチ平面図①	

	(T1・T2・T4・T5・T6・T8)・・・・・・・・42	第64图	台渡里廃寺跡(第26次)T5-001号遺構出土土器(3) ・・・・・・・・50
第58图	台渡里廃寺跡(第26次)のトレンチ平面図①(T7) ・・・・・・・・43	第65图	台渡里廃寺跡(第26次)T5-001号遺構出土土器(4) ・・・・・・・・51
第59图	台渡里廃寺跡(第26次)T1-001号遺構出土土器 ・・・・・・・・44	第66图	台渡里廃寺跡(第26次)T5-004号遺構出土土器 ・・・・・・・・52
第60图	台渡里廃寺跡(第26次)T4-004号遺構出土土器 ・・・・・・・・45	第67图	台渡里廃寺跡(第26次)T7出土土器・・・・・・・・54
第61图	台渡里廃寺跡(第26次)T4-005号遺構出土土器 ・・・・・・・・46	第68图	台渡里廃寺跡(第26次)T7・T8出土土器 ・・・・・・・・55
第62图	台渡里廃寺跡(第26次)T5-001号遺構出土土器(1) ・・・・・・・・48	第69图	台渡里廃寺跡(第26次)出土金属製品・鉄滓 ・・・・・・・・56
第63图	台渡里廃寺跡(第26次)T5-001号遺構出土土器(2) ・・・・・・・・49	第70图	台渡里廃寺跡(第26次)出土縄文土器・ 石器・瓦・・・・・・・・57

写真目次

写真1	米沢町遺跡(第1地点)トレンチ3遺構検出状況・・・・・・・・29	写真19	台渡里廃寺跡(第26次)05N-T5 SB005・SB010・ 002号遺構検出状況・・・・・・・・58
写真2	米沢町遺跡(第1地点)トレンチ3-002号遺構断面・・・・・・・・29	写真20	台渡里廃寺跡(第26次)05N-T7 001号遺構遺物検出状況 ・・・・・・・・58
写真3	米沢町遺跡(第1地点)トレンチ3-001号遺構遺物検出状況・・・・・・・・29	写真21	台渡里廃寺跡(第26次)05N-T7 SB014・002号遺構検出状況 ・・・・・・・・59
写真4	米沢町遺跡(第1地点)トレンチ2遺構検出状況・・・・・・・・29	写真22	台渡里廃寺跡(第26次)05N-T7 003号遺構遺物検出状況 ・・・・・・・・59
写真5	堀遺跡(第3地点)001号遺構遺物出土状況・・・・・・・・34	写真23	台渡里廃寺跡(第26次)05N-T7 004号遺構遺物検出状況 ・・・・・・・・59
写真6	堀遺跡(第3地点)002号遺構遺物出土状況・・・・・・・・34	写真24	台渡里廃寺跡(第26次)05N-T7 SB003・SB007検出状況 ・・・・・・・・59
写真7	堀遺跡(第3地点)003号遺構竪断面・・・・・・・・34	写真25	台渡里廃寺跡(第26次)05N-T7 SB003・SB006・SB007検出状況 ・・・・・・・・59
写真8	堀遺跡(第3地点)003号遺構調査状況・・・・・・・・34	写真26	台渡里廃寺跡(第26次)05N-T7 SB003-P6断面 ・・・・・・・・59
写真9	堀遺跡(第3地点)004・007号遺構遺物出土状況・・・・・・・・34	写真27	台渡里廃寺跡(第26次)05N-T7 SB001・SB002・004号遺構検出状況 ・・・・・・・・59
写真10	堀遺跡(第3地点)004・007号遺構調査状況・・・・・・・・34	写真28	台渡里廃寺跡(第26次)文化庁記念物課文化財調査官視察風景 ・・・・・・・・59
写真11	堀遺跡(第3地点)005号遺構調査状況・・・・・・・・34		
写真12	堀遺跡(第3地点)006号遺構調査状況・・・・・・・・34		
写真13	台渡里廃寺跡(第26次)05N-T1 SB011検出状況・・・・・・・・58		
写真14	台渡里廃寺跡(第26次)05N-T1 001号遺構断面・・・・・・・・58		
写真15	台渡里廃寺跡(第26次)05N-T4 002号遺構断面・・・・・・・・58		
写真16	台渡里廃寺跡(第26次)05N-T4 004号遺構遺物検出状況 ・・・・・・・・58		
写真17	台渡里廃寺跡(第26次)05N-T4 005号遺構遺物検出状況 ・・・・・・・・58		
写真18	台渡里廃寺跡(第26次)05N-T5 001号遺構遺物検出状況 ・・・・・・・・58		

表目次

第1表	開発に伴う試掘調査一覧・・・・・・・・1	第4表	石器観察表・・・・・・・・81
第2表	開発に伴う確認調査一覧・・・・・・・・3	第5表	金属製品観察表・・・・・・・・81
第3表	土器・陶磁器・埴輪・瓦観察表・・・・・・・・59～80		

第1章 平成17年度の発掘調査と概要

平成17年度の水戸市内遺跡発掘調査は、43遺跡74地点(周知外2地点を含む)がその対象となった。その内訳は、開発に係わる試掘・確認調査74件であった。

開発に係わる試掘調査では、15遺跡16地点で遺構が検出され、24遺跡31地点で遺物が出土した(第1表)。これらについては、事業計画と試掘・確認調査によって得られた成果を比較したところ、工事を実施した場合の遺跡への影響が軽微であると判断されたため、工事立会あるいは、慎重工事の扱いとなり、本調査の実施が必要であると判断されたものは、市道浜田207号線側溝新設工事に伴う大鋸町遺跡(第3地点)の1件のみであった。

この大鋸町遺跡(第3地点)の試掘調査結果については、別途刊行した報告書に収録されているので(大橋・佐々木・関口・林 2006)、そちらを参照願いたい。

第1表 開発に伴う試掘調査一覧

№	遺跡名	調査地	調査期間	調査原因	調査面積 (㎡)	調査担当者	遺構	遺物
1	江戸遺跡 (第2地点)	河和町1丁目1639-1の一部	8月22日～23日・26日	共同住宅建築	58.4	関口慶久	—	○
2	江戸遺跡 (第3地点)	河和町1645-13	9月15日～16日	宅地分譲	5.8	関口慶久	—	○
3	江戸遺跡 (第1地点)	内原町字テ 585-1	10月12日	個人住宅建築	2.0	関口慶久、新沼清貴	—	—
4	江戸遺跡 (第2地点)	内原町字テ 585-5	1月13日	個人住宅建築	29.4	関口慶久	—	—
5	大車遺跡 (第6地点)	大車町 610-2, 610-4, 610-5, 610-6	4月6日	個人住宅建築	3.8	関口慶久、新沼清貴	—	—
6	大鋸町遺跡 (第3地点)	元古田町 2776-1～2282-3 (市道浜田207号線)	6月24日	新道敷設	10.0	関口慶久、新沼清貴	○	○
7	大鋸町遺跡 (第4地点)	元古田町字狐塚 2341-8, 2341-9	6月9日	個人住宅建築	1.0	川口武彦、関口慶久	—	—
8	大鋸町遺跡 (第5地点)	元古田町字狐塚 2280-12	11月9日	個人住宅建築	92.7	関口慶久	—	—
9	加賀井忠元遺跡	成沢町 466-2	4月18日	資材置き場	4.0	川口武彦、新沼清貴、関口慶久	—	—
10	笠原神社古墳 (第1地点)	渡里町小山ノ上 2413-4	7月7日・14日・27～28日	共同住宅建築	28.1	関口慶久	○	○
11	笠原水道 (第20地点)	千波町 1263 (都市計画道路 3・4・8)	6月30日	道路新設	4.6	新沼清貴	—	—
12	釜神町遺跡 (第1地点)	樋前町 768-2	3月17日	個人住宅建築	2.0	新沼清貴	—	△
13	釜久保遺跡 (第1地点)	大塚町字釜久保 1612-15	1月17日	共同住宅建築	20.0	新沼清貴	—	○
14	河和町遺跡 (第2地点)	河和町1 1019	3月29日	貯水橋建設	6.0	関口慶久	—	—
15	絆塚遺跡 (第1地点)	河和町1 1109	10月25日	共同住宅建築	81.0	新沼清貴	—	—
16	絆塚遺跡 (第2地点)	河和町字西原 1082-1	12月14日～12月19日	共同住宅建築	91.0	新沼清貴	○	○
17	里民坂遺跡 (第1地点)	上田町1 3585-1	8月8日	個人住宅建築	2.0	川口武彦	○	○
18	新沼田遺跡 (第1地点)	新沼田字三ノ割 3110-2	12月7日	個人住宅建築	12.0	新沼清貴	—	—
19	小林遺跡 (第1地点)	小林町字富士前 308-2 外	12月7日	個人住宅建築	10.0	新沼清貴	—	—
20	金剛寺遺跡 (第1地点)	諏訪町字馬場 387-12	11月15日	個人住宅建築	4.0	関口慶久	—	—
21	金剛寺遺跡 (第2地点)	諏訪町字馬場 387-52 外	11月24日	個人住宅建築	13.9	関口慶久	—	—
22	金剛寺遺跡 (第3地点)	諏訪町字馬場 387-51	11月24日	個人住宅建築	21.9	関口慶久	—	—
23	金剛寺遺跡 (第4地点)	諏訪町字馬場 387-31	2月8日	個人住宅建築	4.0	関口慶久	—	—
24	金剛寺遺跡 (第5地点)	諏訪町字馬場 387-55	2月8日	個人住宅建築	4.0	関口慶久	—	—

No	道跡名	調査地	調査期間	調査原因	調査面積 (㎡)	調査担当者	遺構	遺物
26	下畑道跡 (第2地点)	元石(岡字)山王脇 1584-6	3月14日	個人住宅建築	428	川口武彦	○	○
27	長久道跡 (第2地点)	標高町字三ノ割 2802-5	5月25日	個人住宅建築	2.0	関口慶久、新沼清貴	—	—
28	下長知道跡 (第1地点)	双葉台4丁目143-100、143-101	12月27日	個人住宅建築	11.7	関口慶久	○	○
29	下野道跡 (第2地点)	下野町字御造 289-29、289-30	4月28日	個人住宅建築	2.0	関口慶久、新沼清貴	—	△
30	下本郷道跡 (第1地点)	千波町字東久保 14-31、33	9月8日	個人住宅建築	4.0	関口慶久	—	—
31	岡知外 (小林町地内)	小林町字小林 1200-204	7月12日	個人住宅建築	30.0	関口慶久、新沼清貴	—	—
32	岡知外 (本堂下町地内)	本堂下町 836-1外	9月7日	砂利岩石採掘	5.0	川口武彦	—	—
33	宿内道跡 (第1地点)	標高町字三ノ割 3209-1	3月20日	通信基地建設	4.0	関口慶久	—	—
34	高原古墳群 (第1地点)	大堀町字後原 1031-4	6月23日	個人住宅建築	3.8	関口慶久、新沼清貴	—	○
35	竹ノ内道跡 (第1地点)	西原町字竹ノ内 1498-166、1498-176	6月15日	個人住宅建築	1.0	関口慶久、新沼清貴	—	—
36	竹ノ内道跡 (第2地点)	内原町字夕子 1498-39外	1月13日	個人住宅建築	6.0	関口慶久	—	△
37	長赤山城跡 (第1地点)	渡里町字長者山 3154-0、3154-55	11月1日	個人住宅建築	2.0	川口武彦	○	○
38	外郷道跡 (第1地点)	田野町 1013-52	11月1日	個人住宅建築	2.0	新沼清貴	—	—
39	中河内道跡 (第1地点)	中河内町 196-2、211-2	9月22日	個人住宅建築	3.9	関口慶久	—	○
40	長船道跡 (第1地点)	大足町 1039-2	10月20日	個人住宅建築	2.0	新沼清貴	—	—
41	西原古墳群 (第1地点)	渡里町字野木 3366-2、3366-4、3366-12	6月1日	個人住宅建築	2.0	川口、新沼	—	—
42	西原古墳群 (第2地点)	堀町字宮脇 47-2	9月13日	個人住宅建築	5.0	関口慶久	—	—
43	西原古墳群 (第3地点)	堀町字宮脇 47-8	9月13日	個人住宅建築	3.8	関口慶久	—	—
44	西原古墳群 (第4地点)	渡里町字野木 3387-121	11月8日	個人住宅建築	2.0	関口慶久	—	○
45	西原古墳群 (第5地点)	堀町字馬場東 325-8～11、326-6、326-7	11月17日	個人住宅建築	6.0	新沼清貴	—	○
46	西原古墳群 (第6地点)	堀町字宮脇 49-17～20	12月1日～2日	個人住宅建築	32.0	新沼清貴	○	○
47	西原古墳群 (第7地点)	堀町字馬場東 279-1	2月8日	個人住宅建築	14.2	関口慶久	—	—
48	終巻道跡 (第1地点)	田島町字終巻 420-5	12月22日	個人住宅建築	5.8	関口慶久	—	○
49	東別道跡 (第1地点)	東野町 154-1、154-5	7月11日	個人住宅建築	1.3	川口武彦	—	—
50	東別道跡 (第2地点)	東野町字北割 35-3、52-3、52-5	11月18日	個人住宅建築	4.0	川口武彦、新沼清貴	○	△
51	東別道跡 (第3地点)	東野町字中山 77-1	11月21日	共同住宅建築	46.1	関口慶久	—	—
52	東別道跡 (第4地点)	東野町字南割 141-9、141-19	12月8日	個人住宅建築	4.0	新沼清貴	—	—
53	東別道跡 (第5地点)	東野町字南割 102-14	12月27日	個人住宅建築	9.6	関口慶久	—	—
54	東別道跡 (第6地点)	東野町字南割 102-1、102-13	1月26日	個人住宅建築	22.0	川口武彦、新沼清貴	—	—
55	平塚道跡 (第1地点)	田谷町字権現山 2391-4	5月31日	個人住宅建築	2.0	関口慶久、新沼清貴	—	○
56	藤川町道跡 (第1地点)	藤川町字坂下 927-5	7月28日	個人住宅建築	2.0	関口慶久、新沼清貴	—	—
57	舞台道跡 (第1地点)	三浦町字十枝 80-3	7月13日	個人住宅建築	1.5	川口武彦、関口慶久	—	△
58	堀道跡 (第4地点)	堀町 426-8、426-9の一部	2月1日～2月2日	宅地分譲	81	関口慶久、新沼清貴	—	○
59	万歳寺道跡 (第1地点)	標高町字四ノ割 3515-1	2月21日	店舗建設	1.0	関口慶久、川口武彦	—	—

No	遺跡名	調査地	調査期間	調査原因	調査面積 (㎡)	調査担当者	遺構	遺物
60	水戸城跡 (第2地点)	三の丸2-6-8	5月30日	法面保護工事	2.0	川口武彦、関口慶久	○	○
61	水戸城跡 (第3地点)	三の丸2-9-22	8月29日～9月1日	学校校舎改築工事	42.5	関口慶久	○	○
62	特選寺町古墳群 (第1地点)	加倉井町字野戸805-3	11月29日	個人住宅建築	3.0	新沼清貴	—	—
63	向原遺跡 (第1地点)	有賀町614	10月27日	個人住宅建築	2.0	川口武彦	—	—
64	谷田古墳群 (第1地点)	西門町587-1	4月5日	共同住宅建築	30.0	関口慶久、新沼清貴	○	△
65	谷田古墳群 (第2地点)	西門町字大塚582-1	4月14日	共同住宅建築	7.0	川口武彦、新沼清貴	—	—
66	谷田古墳群 (第3地点)	西門町589-1	2月15日	共同住宅建築	4.0	関口慶久、新沼清貴	—	—
67	谷田古墳群 (第4地点)	西門町587-1	3月15日	共同住宅建築	19.0	関口慶久	—	—
68	横原遺跡 (第1地点)	元吉田町2649-54	11月11日	個人住宅建築	4.0	新沼清貴	—	—
69	米沢町遺跡 (第1地点)	千波町字中道南1503外	8月11日・17日～19日	宅地造成工事	132.0	関口慶久、新沼清貴	○	○
70	米沢町遺跡 (第2地点)	千波町字中道南1502-3	1月30日	個人住宅建築	24.0	関口慶久	—	○
71	米沢町遺跡 (第3地点)	千波町字中道南1502-3	1月30日	個人住宅建築	42.0	関口慶久	—	○
72	電照遺跡 (第1地点)	三國町字電照1108-421	8月10日	個人住宅建築	2.0	川口武彦、新沼清貴	—	—

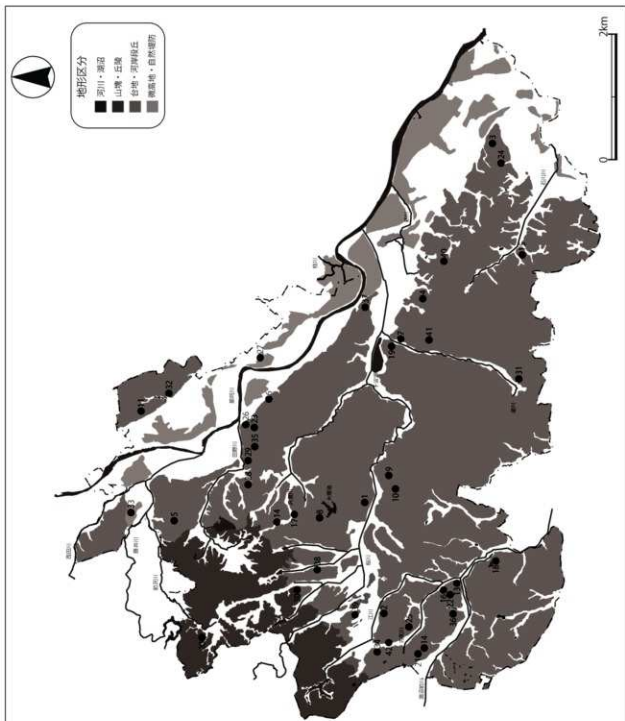
※遺物欄の○は道構確認面や道構覆土中からの出土遺物、△は表土・攪乱層中からの出土遺物を示す。

第2表 開発に伴う確認調査一覧

No	遺跡名	調査地	調査期間	調査原因	調査面積 (㎡)	調査担当者	遺構	遺物
1	堀遺跡 (第3地点)	渡里町字高野台3237外	5月12日 7月19日～21日 8月1日～10日	宅地分譲	356.0	関口慶久、川口武彦、新沼清貴	○	○
2	台渡里麻奈野跡 (第26次)	渡里町字面原2874-1外	8月24日～10月7日 12月13日～28日	商業施設建設	1,636.5	川口武彦、新沼清貴	○	○

※遺物欄の○は道構確認面や道構覆土中からの出土遺物、△は表土・攪乱層中からの出土遺物を示す。

1. 坪遺跡(第2～3地点)
2. 江川断跡(第1～2地点)
3. 大串遺跡(第6地点)
4. 大朝町遺跡(第3～5地点)
5. 加倉井光起跡(第1地点)
6. 箕原神社古墳(第1地点)
7. 箕原水道(第20地点)
8. 釜神町遺跡(第1地点)
9. 多入保遺跡(第2地点)
10. 須和田垣跡(第1地点)
11. 経盛遺跡(第1～2地点)
12. 豊原坂遺跡(第1地点)
13. 轉形塚跡(第1地点)
14. 小林遺跡(第1地点)
15. 金剛寺遺跡(第1～6地点)
16. 下畑遺跡(第2地点)
17. 源兵衛遺跡(第1地点)
18. 下原台遺跡(第1地点)
19. 下野遺跡(第2地点)
20. 下木築遺跡(第1地点)
21. 周知外(木築)下野地内
22. 周知外(小畑)地内
23. 濱西遺跡(第1地点)
24. 台湾聖蹟寺跡(第265次)
25. 高原古墳群(第1地点)
26. 竹ノ内遺跡(第1～2地点)
27. 長者山遺跡(第1地点)
28. 中河内遺跡(第1地点)
29. 中根遺跡(第1地点)
30. 西原古墳群(第1～7地点)
31. 終老遺跡(第1地点)
32. 康砂遺跡(第1～6地点)
33. 平塚遺跡(第1地点)
34. 藤井町遺跡(第1地点)
35. 舞台遺跡(第3・4地点)
36. 畑遺跡(第3・4地点)
37. 万蔵寺遺跡(第1地点)
38. 水戸城跡(第2～3地点)
39. 砂徳寺付近古墳群(第1地点)
40. 尚原遺跡(第1地点)
41. 谷田古墳群(第1～3地点)
42. 米沢町遺跡(第1～3地点)
43. 竜朝遺跡(第1地点)



第1図 調査対象となった遺跡の位置

第2章 開発に伴う試掘調査

試掘調査は、周知の遺跡の範囲内において実施するが、範囲外であっても現地踏査の結果、遺物が採集される場合、地形等から遺跡の存在が予測される場合、開発面積が広大である場合には、周知の範囲外においても試掘調査を実施した。

試掘調査は、開発予定地内に数mの大きさのトレンチ（試掘溝）を設定し、重機（バックホウ）及び人力により、関東ローム層上面まで掘削し、遺構・遺物の有無について確認した。遺構が否かの判断が困難な場合には、サブトレンチ等を設定し、精査により遺構の確認を行った。また、遺跡の時期や遺構の正確を判断するために、サブトレンチを設定し、部分的に掘り下げた場合もある。

遺物は表面採集遺物、トレンチ一括遺物、遺構確認面一括遺物、遺構出土遺物に区分し、取り上げを行った。

2-1 笠原神社古墳（第1地点）

所在地 水戸市渡里町字小山ノ上2413-4

開発面積 506.1㎡

調査期間 平成17年7月7・14・27～28日

調査原因 共同住宅建築

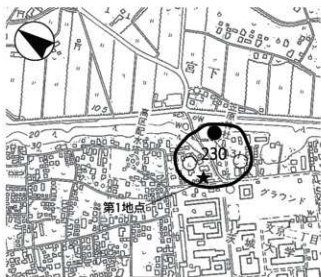
調査担当 関口慶久

調査概要 開発対象地のうち、申請建物部分にトレンチを3箇所設定し（第3図）、人力により関東ローム層上面を目標に掘削を行った。トレンチの詳細は下記のとおりである。

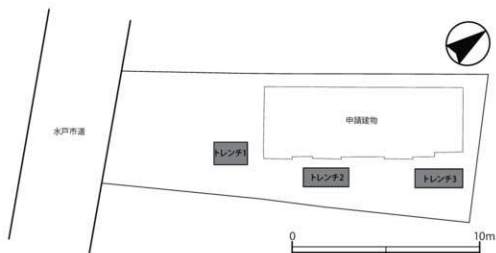
(1) トレンチの詳細

トレンチ1 3.2m×1.1m。地表下60cmまで現代の碎石層及び粘土層が堆積しており、その直下の20cmほどの厚さで暗褐色土層が堆積している状況が認められた。暗褐色土からは柱穴や性格不明土坑等8基が確認されるとともに、縄文土器・土師器・須恵器・陶器・礫等が出土した。関東ローム層上面は地表下90cmで検出された。

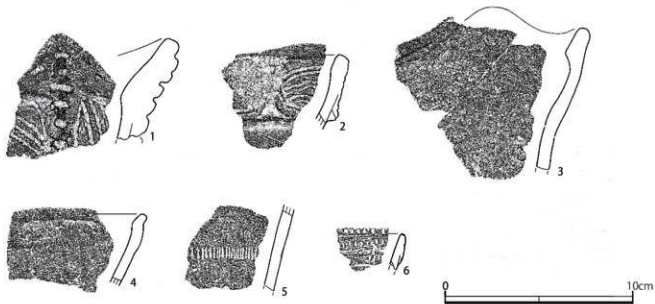
トレンチ2 4.6m×1m。地表下110cmまで碎石層と粘土層が堆積しており、その直下でトレンチ1で確認された暗褐色土層と同じ土層が確認されたが、遺構・遺物は確認されなかった。



第2図 笠原神社古墳（第1地点）の位置



第3図 笠原神社古墳（第1地点）のトレンチ配置



第4図 笠原神社古墳（第1地点）出土遺物

トレンチ3 4.8m×1m。地表下140cmまで碎石層と粘土層が堆積しており、その直下で暗褐色土層が確認されたが、遺構・遺物は確認されなかった。（開口）

(2) 出土遺物

第4図・1～4・6は口縁部片である。1は波状口縁を呈し、文様が隆起線文により区画されている。文様帯を区画する隆帯に沿う角押文は一列で、区画内は密に充填されている。3は波状口縁を呈する。5は篋状工具による押引文が施されている。6は口唇部に刻みが施されている。1は中期前半「阿玉台1b式」、2は「阿玉台2式」、3～5は「阿玉台式」に相当する。（色川）

(3) 確認された埋蔵文化財の取扱

遺構・遺物が確認されたが、30cm以上の保護層が十分に確保できるため、慎重工事が相当であるとした。（開口）

2-2 釜神町遺跡（第1地点）

所在地 水戸市備前町768-2
 開発面積 331.66㎡
 調査期間 平成18年3月17日
 調査原因 個人住宅建築
 調査担当 新垣清貴
 調査概要 開発対象地域のうち、申請建物部分にトレンチを1本設定し（第6図）、人力により関東ローム層上面を目標に掘削を行った。トレンチの詳細は下記のとおりである。

(1) トレンチの概要

トレンチ1 2m×1m。地表下100cmの深さで関東ローム層上面が確認されたが、遺構は確認されなかった。遺物は焼礫が3点出土した。

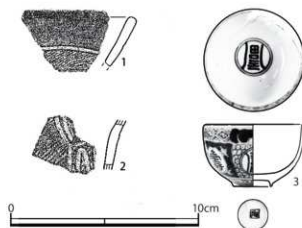
（新垣）



第5図 釜神町遺跡（第1地点）の位置

(2) 出土遺物

第7図・1・2は縄文土器である。1は口縁部片である。1は後期初頭「称名寺式」、2は後期前葉「堀之内式」



第7図 釜神町遺跡（第1地点）出土遺物

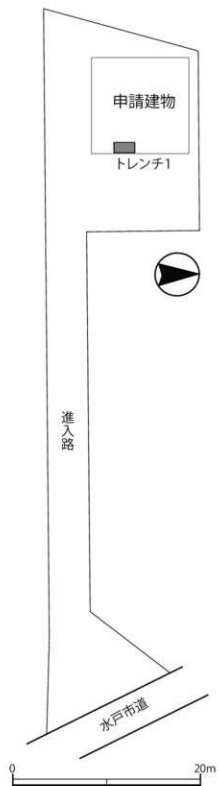
に相当する。3は肥前産とみられる磁器の碗である。

（色川）

（3）確認された埋蔵文化財の取り扱い

遺構・遺物が確認されたが、確認深度はかなり深く30cm以上の保護層は十分に確保できるため、慎重工事が相当であるとした。

（関口）



第6図 釜神町遺跡（第1地点）のトレンチ配置

2-3 釜久保遺跡（第1地点）

所在地 水戸市大塚町大字釜久保 1612-5

開発面積 100㎡

調査期間 平成18年1月17日

調査原因 個人住宅建築

調査担当 新垣清貴

調査概要 開発対象地域のうち、申請建物部分及び浄化槽埋設部分にトレンチを2本設定し（第9図）、重機を用いて関東ローム層上面を目標に掘削を行った。トレンチの詳細は下記のとおりである。

(1) トレンチの概要

トレンチ1 2.5m×1m。地表下100cmの深さで関東ローム層上面が確認されたが、攪乱が著しく遺構・遺物ともに確認されなかった。

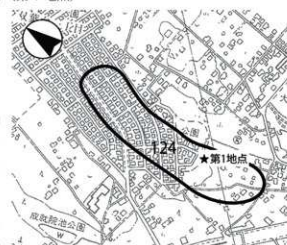
トレンチ2 2.5m×1m。地表下100cmの深さで関東ローム層上面が確認されたが、攪乱が著しく遺構は確認されなかった。遺物は手捏ね土師器の破片が出土した。 (関口)

(2) 出土遺物

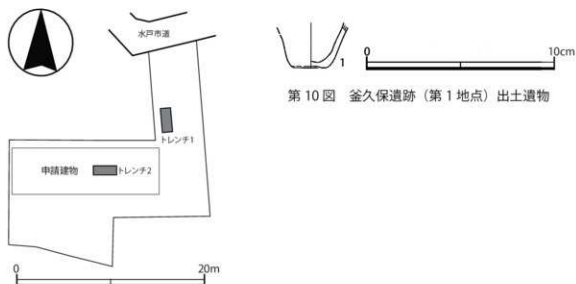
第10図-1は手捏ね土師器の底破片である。古墳時代前期の所産であろうか。 (色川)

(3) 確認された埋蔵文化財の取り扱い

遺構が確認されなかったことから、慎重工事が相当であるとした。 (関口)



第8図 釜久保遺跡（第1地点）の位置



第10図 釜久保遺跡（第1地点）出土遺物

第9図 釜久保遺跡（第1地点）のトレンチ配置

2-4 経塚遺跡（第2地点）

所在地 水戸市河和田町字西宿 1082-1
開発面積 999 m²
調査期間 平成17年12月14日～16日・19日
調査原因 共同住宅建築
調査担当 新垣清貴
調査概要 開発対象地域のうち、申請建物部分及び浄化槽埋設部

分にトレンチを7本設定し（第12図）、重機を用いて関東ローム層上面を目標に掘削を行った。トレンチの詳細は下記のとおりである。

（1）トレンチの概要

トレンチ1 7m×2m。地表下50cmの深さで関東ローム層上面が確認されるとともに堀跡の可能性のあるプラン1条が確認された。遺物は陶器が出土した。

トレンチ2 5m×2m。地表下50cmの深さで関東ローム層上面が確認されるとともに、土坑とみられるプラン3基が確認された。遺物はカワラケが出土した。

トレンチ3 5m×2m。地表下50cmの深さで関東ローム層上面が確認されるとともに、土坑とみられるプラン2基が確認された。遺物は確認されなかった。

トレンチ4 13m×2m。地表下50cmの深さで関東ローム層上面が確認されるとともに、堀跡とみられるプラン1条、土坑とみられるプラン3基、ピット1基が確認された。遺物は確認されなかった。

トレンチ5 7m×2m。地表下50cmの深さで関東ローム層上面が確認されるとともに、土坑とみられるプラン4基、地下式坑とみられるプラン1基が確認された。遺物はカワラケが出土した。

トレンチ6 5m×2m。地表下90cmの深さで関東ローム層上面が確認されたが、遺構・遺物は確認されなかった。

トレンチ7 5m×1m。地表下50cmの深さで関東ローム層上面が確認されるとともに、土坑とみられるプラン1基が確認されたが、遺物は確認されなかった。（新垣）

（2）出土遺物

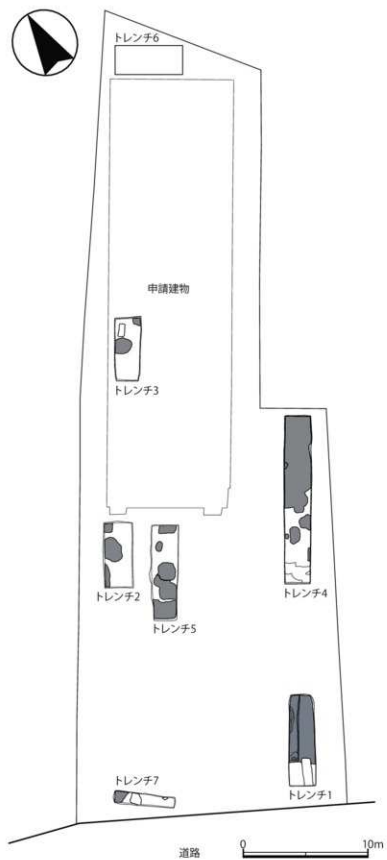
第13図-1は瀬戸美濃産の志野織部皿A、2は瀬戸美濃産の志野菊皿、3は瀬戸美濃産の天目碗である。4～7はカワラケで、4は中でも小さいことから小カワラケに分類される。8は内耳土器、9は瓦質土器の掘跡である。1が17世紀初頭～前半、2は17世紀初頭、3は17世紀前半～後半、4・5・7は16世紀以降、6は17世紀、8は16世紀以降の年代が与えられる。（色川）

（3）確認された埋蔵文化財の取り扱い

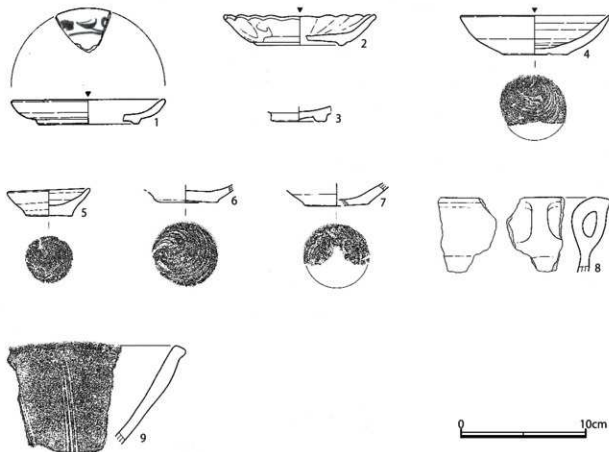
遺構が確認されたが30cm以上の保護層を確保できることから、慎重工事が相当であるとした。（新垣）



第11図 経塚遺跡（第2地点）の位置



第12図 経塚遺跡（第2地点）のトレンチ配置



第13図 経塚遺跡（第2地点）出土遺物

2-5 軍民坂遺跡（第1地点）

所在地 水戸市上国井町 3585-1

開発面積 500㎡

調査期間 平成17年8月8日

調査原因 個人住宅建築

調査担当 川口武彦

調査概要 開発対象地域のうち、申請建物部分にトレンチを1本設定し（第15図）、人力により関東ローム層上面を目標に掘削を行った。トレンチの詳細は下記のとおりである。

（1）トレンチの概要

トレンチ1 2m×1m。地表下80～90cmの深さで関東ローム層上面が確認されるとともに土坑とみられるプラン1基が確認された。遺物は縄文土器・土師器・須恵器・礫が出土した。

（川口） 第14図 軍民坂遺跡（第1地点）の位置

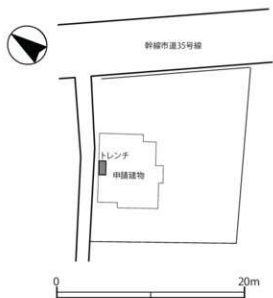


（2）出土遺物

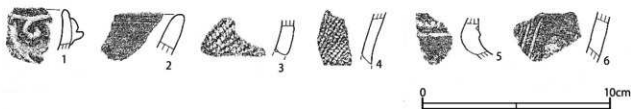
第16図-1～6は縄文土器である。1～5は中期後葉の加曾利E式で、1は渦巻文の形状から加曾利E2式と判断される。6は後期前葉の堀之内式とみられる。 （色川）

（3）確認された埋蔵文化財の取り扱い

遺構が確認されたが30cm以上の保護層を確保できることから、慎重工事が相当であるとした。 （川口）



第15図 軍民坂遺跡（第1地点）のトレンチ配置



第16図 軍民坂遺跡（第1地点）出土遺物

2-6 下荒勾遺跡（第1地点）

所在地 水戸市双葉台4丁目143-100, 143-101

開発面積 449.6㎡

調査期間 平成17年12月27日

調査原因 個人住宅建築

調査担当 関口慶久

調査概要 開発対象地域のうち、申請建物部分及び合併浄化槽部分にトレンチを2本設定し（第18図）、重機を用いて関東ローム層上面を目標に掘削を行った。トレンチの詳細は下記のとおりである。

（1）トレンチの概要

トレンチ1 5.7m×1m、地表下30cmの深さで関東ローム層上面が確認されたが、遺構は確認されなかった。遺物は縄文土器



第17図 下荒勾遺跡（第1地点）の位置

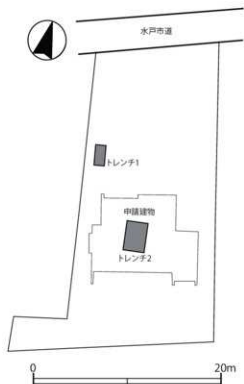
トレンチ2 3m×2m、地表下30cmの深さで関東ローム層上面が確認されるとともに溝とみられるプラン1条が確認された。遺物は縄文土器が出土した。（関口）

（2）出土遺物

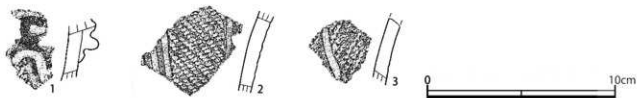
第19図-1～3は縄文土器である。1は文様が隆起線文、2・3は沈線文により区画されている。1・3は中期後半「加曽利E式」、2は「加曽利E2式」に相当する。（色川）

(3) 確認された埋蔵文化財の取り扱い

遺構が確認されたが30cm以上の保護層を確保できることから、慎重工事が相当であるとした。(関口)



第18図 下荒勾遺跡(第1地点)のトレンチ配置



第19図 下荒勾遺跡(第1地点)出土遺物

2-7 高原古墳群(第1地点)

所在地 水戸市大場町字後原 1031-4

開発面積 359.4㎡

調査期間 平成17年6月23日

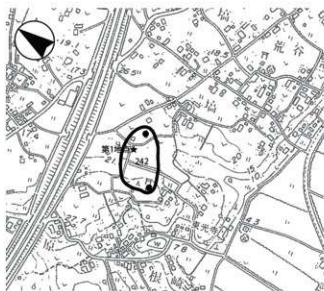
調査原因 個人住宅建築

調査担当 関口慶久、新垣清貴

調査概要 開発対象地域のうち、合併浄化槽部分にトレンチを1本設定し(第21図)、人力により関東ローム層上面を目標に掘削を行った。トレンチの詳細は下記のとおりである。

(1) トレンチの概要

トレンチ1 2.5m×1.5m、地表面200cmの深さで関東ローム層上面が確認され、120cmの深さでは柱穴とみられるプラン1基が確認された。その直下の黒色土層からは、弥生時代後期の土器を含む遺物包含層が確認された。遺物は弥生土器、須恵器、土



第20図 高原古墳群(第1地点)の位置

師器、軒平瓦、礎が出土した。(関口・新垣)

(2) 出土遺物

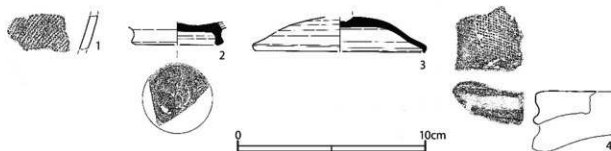
第21図・1は弥生土器である。付加条第1種LR+2Rが施文されている。時期は後期に相当する。2・3は須恵器で2は高台付杯、3は蓋である。いずれも木葉下窯跡群産とみられ、技術的・形態的特徴から8世紀後葉～9世紀初頭頃の年代が与えられる。4は頸面が剥落したヘラ描き重弧文軒平瓦である。8世紀前葉の年代が与えられる。(色川)

(3) 確認された埋蔵文化財の取り扱い

遺構が確認されたが、配置変更することで調整できたことから、工事立会が相当であるとした。(関口・新垣)



第20図 高原古墳群(第1地点)のトレンチ配置



第21図 高原古墳群(第1地点)出土遺物

2-8 竹ノ内遺跡(第2地点)

所在地 水戸市内原町字タテ 1498-39 外

開発面積 977 m²

調査期間 平成18年1月13日

調査原因 個人住宅建築

調査担当 関口慶久

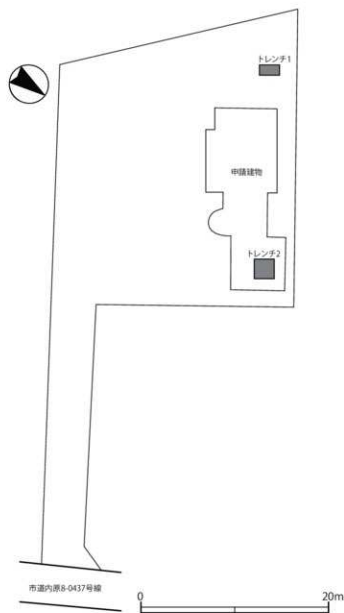
調査概要 開発対象地域のうち、申請建物部分及び合併浄化槽部分にトレンチを2本設定し(第22図)、人力により関東ローム層上面を目標に掘削を行った。トレンチの詳細は下記のとおりである。

(1) トレンチの概要

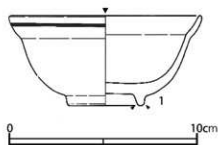
トレンチ1 2m×1m。地表下180cmの深さで自然堆積の黒色土層が確認されたが、遺構は確認されなかった。遺物は表土より磁器の碗が1点出土した。



第22図 竹ノ内遺跡(第2地点)の位置



第 23 図 竹ノ内遺跡（第 2 地点）のトレンチ配置



第 24 図 竹ノ内遺跡（第 2 地点）出土遺物

トレンチ 2 2m×2m。地表下 180cm の深さで自然堆積の黒色土層が、地表下 240cm で関東ローム層上面が確認されたが、遺構・遺物ともに確認されなかった。（関口）

(2) 出土遺物

第 24 図 - 1 は瀬戸美濃産の磁器碗である。外面口縁部二重團線が描かれているが、底面に統制記号はみられない。1930 年代～ 1945 年の年代が与えられる。（色川）

(3) 確認された埋蔵文化財の取り扱い

遺構が確認されなかったことから、慎重工事が相当であるとした。（関口）